【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第１部門第２区分
【発行日】令和6年5月9日(2024.5.9)

【公開番号】特開2023-161682(P2023-161682A)
【公開日】令和5年11月8日(2023.11.8)
【年通号数】公開公報(特許)2023-210
【出願番号】特願2022-72154(P2022-72154)
【国際特許分類】
Ａ６３Ｆ　7/02(2006.01)
【ＦＩ】
Ａ６３Ｆ　7/02　３２６Ｚ

【手続補正書】
【提出日】令和6年4月25日(2024.4.25)
【手続補正１】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
遊技状態を制御可能な遊技状態制御手段と、
遊技者に付与された遊技価値数と遊技者により用いられた遊技価値数とにかかわる値を計数可能な計数手段と、
前記計数手段により計数されている値に応じて、報知状態を判定可能な報知状態判定手段と、
前記計数手段により計数された値が所定値に達した場合に遊技の実行を停止する遊技停止手段と、を備え、
前記遊技状態制御手段は、通常遊技状態と、前記通常遊技状態における遊技の結果が特別結果を満たす場合に移行可能であり前記通常遊技状態よりも遊技者に多くの遊技価値を付与可能な特別遊技状態と、を少なくとも含む複数の遊技状態のうち何れかの遊技状態に制御可能であり、
前記報知状態判定手段は、
前記計数手段により計数されている値が所定の範囲にあるときに、第１報知状態と判定可能であり、
前記計数手段により計数されている値が所定値に達しており、且つ、遊技状態が前記特別遊技状態であるときに、第２報知状態と判定可能であり、
前記計数手段により計数されている値が所定値に達しており、且つ、遊技状態が前記特別遊技状態でないときに、第３報知状態と判定可能であり、
前記遊技停止手段は、前記計数手段により計数されている値が所定値に達しており、且つ、遊技状態が前記特別遊技状態でないときに、遊技を停止することが可能な手段であり、
複数の演出実行手段を制御可能な演出制御手段は、
前記第１報知状態のときに前記複数の演出実行手段のうちの発光手段を第１の態様に制御可能であり、
前記第２報知状態および前記第３報知状態のうち少なくとも何れか一方の報知状態のときに前記発光手段を前記第１の態様とは異なる第２の態様に制御可能であり、
少なくとも前記第１報知状態であり、且つ、第１エラーが発生するときに、前記第１報知状態にかかわる報知を前記第１エラーにかかわる報知よりも優先して実行可能であり、

少なくとも前記第１報知状態であり、且つ、前記第１エラーとは異なる第２エラーが発生するときに、前記第１報知状態にかかわる報知よりも前記第２エラーにかかわる報知を優先して実行可能であり、
前記演出制御手段は、
前記第１報知状態又は前記第２報知状態であるときに、所定の画像を前記複数の演出実行手段のうちの表示手段に表示させることが可能であり、
前記第３報知状態であるときに、前記所定の画像とは異なる特定の画像を前記表示手段に表示させることが可能であり、
前記第１報知状態、前記第２報知状態、及び前記第３報知状態のうち少なくとも何れか一つの報知状態であるときに、当該報知状態を報知することが可能な所定音を前記複数の演出実行手段のうちの音出力手段により出力可能であり、
前記特定の画像は、前記所定の画像とは異なる表示階層に表示されるものであり、装飾図柄の表示とも異なる表示階層にて表示され、
前記所定音は、遊技者による音量調整に基づく音量値に関係ない値で出力され得る音である
ことを特徴とする遊技機。
【請求項２】
遊技状態を制御可能な遊技状態制御手段と、
遊技者に付与された遊技価値数と遊技者により用いられた遊技価値数とにかかわる値を計数可能な計数手段と、
前記計数手段により計数されている値に応じて、報知状態を判定可能な報知状態判定手段と、
前記計数手段により計数された値が所定値に達した場合に遊技の実行を停止する遊技停止手段と、を備え、
前記遊技状態制御手段は、通常遊技状態と、前記通常遊技状態における遊技の結果が特別結果を満たす場合に移行可能であり前記通常遊技状態よりも遊技者に多くの遊技価値を付与可能な特別遊技状態と、を少なくとも含む複数の遊技状態のうち何れかの遊技状態に制御可能であり、
前記報知状態判定手段は、
前記計数手段により計数されている値が所定の範囲にあるときに、第１報知状態と判定可能であり、
前記計数手段により計数されている値が所定値に達しており、且つ、遊技状態が前記特別遊技状態であるときに、第２報知状態と判定可能であり、
前記計数手段により計数されている値が所定値に達しており、且つ、遊技状態が前記特別遊技状態でないときに、第３報知状態と判定可能であり、
前記遊技停止手段は、前記計数手段により計数されている値が所定値に達しており、且つ、遊技状態が前記特別遊技状態でないときに、遊技を停止することが可能な手段であり、
複数の演出実行手段を制御可能な演出制御手段は、
前記第１報知状態のときに前記複数の演出実行手段のうちの発光手段を第１の態様に制御可能であり、
前記第２報知状態および前記第３報知状態のうち少なくとも何れか一方の報知状態のときに前記発光手段を前記第１の態様とは異なる第２の態様に制御可能であり、
少なくとも前記第１報知状態であり、且つ、第１エラーが発生するときに、前記第１報知状態にかかわる報知を前記第１エラーにかかわる報知よりも優先して実行可能であり、
少なくとも前記第１報知状態であり、且つ、前記第１エラーとは異なる第２エラーが発生するときに、前記第１報知状態にかかわる報知よりも前記第２エラーにかかわる報知を優先して実行可能であり、
前記演出制御手段は、
前記第１報知状態又は前記第２報知状態であるときに、所定の画像を前記複数の演出実

行手段のうちの表示手段に表示させることが可能であり、
前記第３報知状態であるときに、前記所定の画像とは異なる特定の画像を前記表示手段に表示させることが可能であり、
前記第１報知状態、前記第２報知状態、及び前記第３報知状態のうち少なくとも何れか一つの報知状態であるときに、当該報知状態を報知することが可能な所定音を前記複数の演出実行手段のうちの音出力手段により出力可能であり、
前記特定の画像は、前記所定の画像とは異なる表示階層に表示されるものであり、装飾図柄の表示とも異なる表示階層にて表示され、
前記所定音は、遊技者による音量調整に基づく音量値にて出力され得る音である
ことを特徴とする遊技機。

【手続補正２】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】０００２
【補正方法】変更
【補正の内容】
【０００２】
従来より、所定の条件が成立すると図柄の可変表示が行われ、この図柄の可変表示が停止して特別の結果が表示されると、特別遊技状態に移行する遊技機が知られている。
【手続補正３】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】０００３
【補正方法】変更
【補正の内容】
【０００３】
この種の遊技機として、差枚数が規定された枚数を超過した場合に遊技者にとって有利な状態である場合には、当該有利な状態が終了したタイミングで、所定の条件を満たしたと判定して、遊技の進行を停止する遊技機が開示されている（例えば、特許文献１の段落［１４３９］及び［１４４５］等を参照）。
【手続補正４】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】０００４
【補正方法】変更
【補正の内容】
【０００４】
【特許文献１】特開２０２１－０９０８０８号公報
【手続補正５】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】０００５
【補正方法】変更
【補正の内容】
【０００５】
特許文献１に記載の遊技機によれば、遊技の進行の停止が遊技者にとっては不意打ちとなることがあり、興趣が低下するおそれがあった。
【手続補正６】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】０００６
【補正方法】変更
【補正の内容】
【０００６】
本発明は、そのような点に鑑みてなされたものであり、その目的は、興趣の低下を抑制

することにある。
【手続補正７】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】０００７
【補正方法】変更
【補正の内容】
【０００７】
（１）本発明に係る遊技機は、
遊技状態を制御可能な遊技状態制御手段（例えば、メインＣＰＵ６２０１）と、
遊技者に付与された遊技価値数と遊技者により用いられた遊技価値数とにかかわる値を計数可能な計数手段（例えば、メインＣＰＵ６２０１）と、
前記計数手段により計数されている値に応じて、報知状態を判定可能な報知状態判定手段（例えば、メインＣＰＵ６２０１）と、
前記計数手段により計数された値が所定値に達した場合に遊技の実行を停止する遊技停止手段（例えば、メインＣＰＵ６２０１）と、を備え、
前記遊技状態制御手段は、通常遊技状態と、前記通常遊技状態における遊技の結果が特別結果を満たす場合に移行可能であり前記通常遊技状態よりも遊技者に多くの遊技価値を付与可能な特別遊技状態（例えば、大当り遊技状態）と、を少なくとも含む複数の遊技状態のうち何れかの遊技状態に制御可能であり、
前記報知状態判定手段は、
前記計数手段により計数されている値（例えば、ＭＹ）が所定の範囲（例えば、ＨＬ≦ＭＹ＜ＨＨ）にあるときに、第１報知状態（例えば、事前報知状態）と判定可能であり、
前記計数手段により計数されている値が所定値（例えば、ＨＨ≦ＭＹ）に達しており、且つ、遊技状態が前記特別遊技状態であるときに、第２報知状態（例えば、打ち止め準備状態）と判定可能であり、
前記計数手段により計数されている値が所定値に達しており、且つ、遊技状態が前記特別遊技状態でないときに、第３報知状態（例えば、打ち止め状態）と判定可能であり、
前記遊技停止手段は、前記計数手段により計数されている値が所定値に達しており、且つ、遊技状態が前記特別遊技状態でないときに、遊技を停止することが可能な手段であり、
複数の演出実行手段（例えば、表示装置６００７、盤側ＬＥＤ、枠側ＬＥＤ、スピーカ６０３２、演出用役物群６０５８）を制御可能な演出制御手段（例えば、サブＣＰＵ６３０１）は、
前記第１報知状態のときに前記複数の演出実行手段のうちの発光手段（例えば、枠側ＬＥＤ）を第１の態様（例えば、第１発光態様、第２発光態様）に制御可能であり、
前記第２報知状態および前記第３報知状態のうち少なくとも何れか一方の報知状態のときに前記発光手段を前記第１の態様とは異なる第２の態様（例えば、打ち止め準備状態であれば第３発光態様、打ち止め状態であれば全消灯態様）に制御可能であり、
少なくとも前記第１報知状態であり、且つ、第１エラー（例えば、弱エラー）が発生するときに、前記第１報知状態にかかわる報知を前記第１エラーにかかわる報知よりも優先して実行可能であり、
少なくとも前記第１報知状態であり、且つ、前記第１エラーとは異なる第２エラー（例えば、強エラー）が発生するときに、前記第１報知状態にかかわる報知よりも前記第２エラーにかかわる報知を優先して実行可能であり、
前記演出制御手段は、
前記第１報知状態又は前記第２報知状態であるときに、所定の画像（例えば、事前報知状態を示す「まもなくコンプリート機能が作動します」の画像、打ち止め準備状態を示す「当り終了後にコンプリート機能が作動します」の画像）を前記複数の演出実行手段のうちの表示手段（例えば、表示装置６００７）に表示させることが可能であり、
前記第３報知状態であるときに、前記所定の画像とは異なる特定の画像（例えば、打ち

止め状態を示す「コンプリート機能作動中　一日に払出可能な上限に達しました」の画像）を前記表示手段に表示させることが可能であり、
　前記第１報知状態、前記第２報知状態、及び前記第３報知状態のうち少なくとも何れか一つの報知状態であるときに、当該報知状態を報知することが可能な所定音（例えば、状態報知態様）を前記複数の演出実行手段のうちの音出力手段（例えば、スピーカ６０３２）により出力可能であり、
　前記特定の画像は、前記所定の画像とは異なる表示階層に表示されるものであり、装飾図柄（例えば、演出図柄６００７１、ミニ図柄６００７５，６００７６）の表示とも異なる表示階層にて表示され、
　前記所定音は、遊技者による音量調整に基づく音量値に関係ない値（例えば、一定音量）で出力され得る音である
　ことを特徴とする。
（２）本発明に係る遊技機は、
　遊技状態を制御可能な遊技状態制御手段（例えば、メインＣＰＵ６２０１）と、
　遊技者に付与された遊技価値数と遊技者により用いられた遊技価値数とにかかわる値を計数可能な計数手段（例えば、メインＣＰＵ６２０１）と、
　前記計数手段により計数されている値に応じて、報知状態を判定可能な報知状態判定手段（例えば、メインＣＰＵ６２０１）と、
　前記計数手段により計数された値が所定値に達した場合に遊技の実行を停止する遊技停止手段（例えば、メインＣＰＵ６２０１）と、を備え、
　前記遊技状態制御手段は、通常遊技状態と、前記通常遊技状態における遊技の結果が特別結果を満たす場合に移行可能であり前記通常遊技状態よりも遊技者に多くの遊技価値を付与可能な特別遊技状態（例えば、大当り遊技状態）と、を少なくとも含む複数の遊技状態のうち何れかの遊技状態に制御可能であり、
　前記報知状態判定手段は、
　前記計数手段により計数されている値（例えば、ＭＹ）が所定の範囲（例えば、ＨＬ≦ＭＹ＜ＨＨ）にあるときに、第１報知状態（例えば、事前報知状態）と判定可能であり、
　前記計数手段により計数されている値が所定値（例えば、ＨＨ≦ＭＹ）に達しており、且つ、遊技状態が前記特別遊技状態であるときに、第２報知状態（例えば、打ち止め準備状態）と判定可能であり、
　前記計数手段により計数されている値が所定値に達しており、且つ、遊技状態が前記特別遊技状態でないときに、第３報知状態（例えば、打ち止め状態）と判定可能であり、
　前記遊技停止手段は、前記計数手段により計数されている値が所定値に達しており、且つ、遊技状態が前記特別遊技状態でないときに、遊技を停止することが可能な手段であり、
　複数の演出実行手段（例えば、表示装置６００７、盤側ＬＥＤ、枠側ＬＥＤ、スピーカ６０３２、演出用役物群６０５８）を制御可能な演出制御手段（例えば、サブＣＰＵ６３０１）は、
　前記第１報知状態のときに前記複数の演出実行手段のうちの発光手段（例えば、枠側ＬＥＤ）を第１の態様（例えば、第１発光態様、第２発光態様）に制御可能であり、
　前記第２報知状態および前記第３報知状態のうち少なくとも何れか一方の報知状態のときに前記発光手段を前記第１の態様とは異なる第２の態様（例えば、打ち止め準備状態であれば第３発光態様、打ち止め状態であれば全消灯態様）に制御可能であり、
　少なくとも前記第１報知状態であり、且つ、第１エラー（例えば、弱エラー）が発生するときに、前記第１報知状態にかかわる報知を前記第１エラーにかかわる報知よりも優先して実行可能であり、
　少なくとも前記第１報知状態であり、且つ、前記第１エラーとは異なる第２エラー（例えば、強エラー）が発生するときに、前記第１報知状態にかかわる報知よりも前記第２エラーにかかわる報知を優先して実行可能であり、
　前記演出制御手段は、

前記第１報知状態又は前記第２報知状態であるときに、所定の画像（例えば、事前報知状態を示す「まもなくコンプリート機能が作動します」の画像、打ち止め準備状態を示す「当り終了後にコンプリート機能が作動します」の画像）を前記複数の演出実行手段のうちの表示手段（例えば、表示装置６００７）に表示させることが可能であり、
前記第３報知状態であるときに、前記所定の画像とは異なる特定の画像（例えば、打ち止め状態を示す「コンプリート機能作動中　一日に払出可能な上限に達しました」の画像）を前記表示手段に表示させることが可能であり、
前記第１報知状態、前記第２報知状態、及び前記第３報知状態のうち少なくとも何れか一つの報知状態であるときに、当該報知状態を報知することが可能な所定音（例えば、状態報知態様）を前記複数の演出実行手段のうちの音出力手段（例えば、スピーカ６０３２）により出力可能であり、
前記特定の画像は、前記所定の画像とは異なる表示階層に表示されるものであり、装飾図柄（例えば、演出図柄６００７１、ミニ図柄６００７５，６００７６）の表示とも異なる表示階層にて表示され、
前記所定音は、遊技者による音量調整に基づく音量値にて出力され得る音である
ことを特徴とする。